

放課後等デイサービス評価表(職員) 集計

ごうでいんぐ今泉
 実施時期 令和元年12月 回収率;100%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	意見
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	3		1	・個室がいくつかあればもっと良いと思った。
	② 職員の配置数は適切であるか		3	1	・増やしてほしい。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。	2	2		
業務・改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	2	2		
	⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	2	2		
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	4			
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		4		
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	3	1		
	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4			
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4			
適切な支援の提供	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	4			
	⑫ 活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	4			
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め細やかに設定して支援しているか	3	1		
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	4			
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4			
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	1	3		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	意見
適切な 支援 提供	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4			
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	4			
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	4			
関係機 関や保 護者 との連 携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	3	1		
	㉑ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	4			
	㉒ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	1	3		
	㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		4		
	㉔ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	1	3		
	㉕ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4			
	㉖ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2		2	・公園等の利用の際、地域の方々とふれあう機会があると良いと思う。
	㉗ (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	3	1		
	㉘ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4			
保護 者へ の説 明	㉙ 保護者の対応力の向上を図る観点から保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	3	1		
	㉚ 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	3	1		
	㉛ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	4			
	㉜ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	2	2		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	意見
保護者への説明責任	③③ 子どもや保護者からの苦情について体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速にかつ適切に対応しているか	4			
	③④ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4			
	③⑤ 個人情報に十分注意しているか	4			
	③⑥ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4			
	③⑦ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	4			・感謝祭の実施。
非常時等の対応	③⑧ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル感染症対応マニュアルを設定し、職員や保護者に周知しているか	4			
	③⑨ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4			
	④⑩ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4			・定期的に職員にアンケートを取っている。
	④⑪ どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	4			
	④⑫ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	4			
	④⑬ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4			

各項目についての評価及び課題

②	職員配置については定員10名に対して2名の配置が必要であり、うち1名が常勤でなければならないとされている。今泉の場合、常勤が2名、非常勤が2名配置されており、法令上より常勤換算で1.5名程度多く配置されていることになるが、障害の重さによって、配置比率を高めることも必要と感じている。現場での困難さを十分に分析し、対応したい。
③	令和2年度における新事業所への移転で解消されるはずである。
④	PDCAサイクルについては、支援計画を中心に方針、中間総括、年度総括の流れで振り返り、業務全般に関しては、業務の振り返りチェック、虐待防止チェック、ヒヤリハット等々を活用している。取り組み全般にも及ぶ考え方であるので、“どちらともいえない”との回答には問題がある。個々の職員へ再度周知したい。
⑦	外部による事業者評価については令和3年度を予定している。それまでの間は、自主的な点検作業を常に推進していきたい。
⑯	支援終了後にすぐを実施することは難しいが、連絡ノートや当日の打ち合わせ等の際に確認されるはずである。もし、共通理解を果たすための引き継ぎ等がなされていないのであれば問題である。再度、職員に周知したい。
⑳	アセスメントツール(静岡サポートファイル)において整理しているが、就学前での利用先からの情報はない。個別支援計画の本来の意味は、各ステージにおける個々の取り組み等を引き継ぐことにあるが、就学前での取り組みはほぼ学校へ引き継がれているはずである。学校からの情報があるので、結果的にはデイにも引き継がれていると判断しても差し支えないと思われる。
㉑	特別支援学校卒業生に関しては、卒業時に、移行支援会議が設定され、学校の先生が中心となり、受け入れ先事業所、相談支援事業所、育成会等の関係機関で引き継ぎの協議を実施している。デイが参加したことはない。(H27評価を転記)

全体としての課題

”どちらともいえない”又は”いいえ”と答える際には、その具体的改善策を述べるべきである。私たちの力には限界があり、ひとりでは大したこともできない。したがって、チームで動くことが必要になるわけだが、個々の思いや力等の違いにより、滑らかに活動できるとは限らない。職員集団の質は常に求められる。個々の思い等を常に集団に伝え、集団の中で全員が理解することが求められる。業務は非常に複雑である。共通理解を果たすためのツールとして、連絡帳、引き継ぎ帳、ボードへの記載等々、さまざまな工夫がされているはずである。今以上に効率的に、そして、仲間たちのゆたかな取り組みを進めるために個々人の変革も必要と考える。法人並びに事業所としては、今までの経緯をまとめ、より科学的な取り組みを進めるために、令和2年度から5年計画で専門家によるコンサルテーションを実施する予定である。